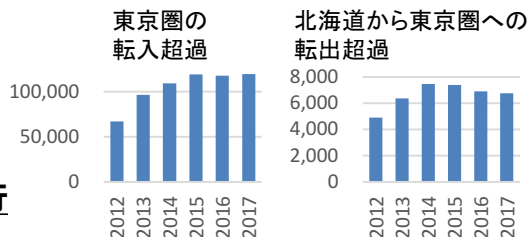


～北海道の魅力を活かした人と企業の呼び込みの新たな展開～

■東京一極集中について

- 道から東京圏への転出超過数は、近年減少傾向にあるものの、依然として、若者を中心に6,000人以上の転出超過となっている。
- 国においては、2020年に東京圏と地方圏の転出入均衡を図る目標だが、東京圏の転入超過は拡大傾向。
 - ・2013年 約10万人→2017年 約12万人
 - ⇒**若者を中心としたUIターン対策の抜本的強化へ向け「わくわく地方生活実現政策パッケージ」を策定・実行**



■人・企業の呼び込みの新たな動きについて

- 地域や地域の人々と多様に関わる「**関係人口**」に着目

- ・「**関係人口**」は、**地域づくりの担い手として重要な役割**を果たしうる存在。
- ・これからの地域の持続性を確保する上で、「**関係人口**」の**重要性を認識することなく、地域づくりを考えることは、もはやできない**

「これからの移住・交流施策のあり方に関する検討会報告書」（平成30年1月）より引用

- また、国では働き方改革の実現に向けて、**時間や場所を有効に活用できるテレワーク等の環境整備を支援**

<企業における効果>

- ・従業員のワーク・ライフ・バランスの向上
- 〔家族と過ごす時間や趣味の時間が増えた〕
- 〔育児や介護等と仕事の両立が可能となった〕
- ・優秀な人材の確保や雇用継続につながった



- ⇒**地方のサテライトオフィス等を活用し、休暇を楽しみながら仕事を行う「ワーケーション」※に取り組む企業が拡大**※ワーケーション=仕事 (work)と休暇 (vacation) を組み合わせた欧米発の造語

■他県の取組について

- ICT・交通基盤**や**観光資源**が整備されている**和歌山県**において、テレワーク等の柔軟な働き方を活用し、都会の人材が地域との「**関係**」性を創出する**ワーケーション**に取り組む企業を誘致
- ・ハード面：温泉地、宿泊施設、Wi-Fi環境の整備、羽田空港から南紀白浜空港まで往復で一日計6便が運行
- ・ソフト面：世界遺産の熊野古道、高野山。単なる山や海にはとどまらない価値を提供するほか、地域資源を活かしたアクティビティ（熊野古道の修繕活動）など



■北海道における新たな展開について

東京圏の企業をターゲットとしたワーケーションの誘致等、北海道の魅力を活かした人と企業の呼び込みの新たな流れを作り出せるのではないかと

- ・温泉地～層雲峡、湯の川、十勝川、阿寒湖、ウトロ等
- ・空港～旭川、函館、帯広、釧路、女満別等
- ・新鮮な農水産物・グルメ、農業・漁業体験
- ・気候～冷涼低湿（避暑地としての北海道）
- ・花粉～スギ花粉が少ない（花粉症対策）
- ・本州にはない雪質（ウィンタースポーツ）、大自然でのアウトドア体験

働き方改革

- ・ワークライフバランスの推進
- ・休暇取得率向上
- ・多様な働き方の推進

- ・生産性の向上
- ・モチベーションの向上
- ・イノベーションの創出